

## 認定心理士の会から

### オンラインでつながる認定心理士

昨今は新型コロナウイルス感染症対策のため予定されていたイベントの開催が延期や中止となっています。他方でオンライン、オンデマンドの形でのイベント開催も盛んとなっています。このような状況の中、認定心理士の会では3年も前からいち早く「Net de 交流！ 認定心理士」というオンラインイベントの開催に取り組み、4月からは認定心理士の方がオンラインで話題提供し、会員の皆様と意見交換をするイベントも行われています。さらには現在在宅で心理学研究ができる試みでもあるシチズン・サイエンスプロジェクトも進行中です。

とはいえ、オンラインイベントでの参加や発表に不安を覚える方もいらっしゃるのではないのでしょうか。かくいう私もオンラインイベントで話をした際にはその場の雰囲気になじめるだろうかと不安に思っていました。ですが想像以

上にイベントへのアクセスは簡単であり、もしもの場合にもオンライン支部会の方が種々のサポートをしてくれます。そして、なによりPC画面にタイル表示される聴衆の方々の笑顔に安心させていただきました。そこには同じ時間を共有できている印象がありました。個人的には、聴衆の皆さんのマイクもオンになっているほうが雰囲気を掴め、より安心できるのではないかとは思いますが、今後技術が発展して話者の発言が聞き取りやすい状態で場の雰囲気を互いに感知できるシステムになるとより良いと思っています。ですが、総じて参加する前に感じていた参加へのハードルは想像以上に低いというのが印象です。おそらく今後オンラインでの認定心理士の会の活動の選択肢はさらに増えて活発になるものと思います。是非ともオンラインでの認定心理士の会に注目していただき、お気軽に笑顔で参加していただければと思います。

(認定心理士の会運営委員会委員 河地庸介)

## 若手の会から

### 当事者として語り合えることの可能性

今年の春は新型コロナの報道により触れられることが少なかったのですが、1月は阪神・淡路大震災から25年、3月は東日本大震災から9年、4月は熊本地震から4年が経ちました。今でもあの日のことをはっきりと覚えている方は多いのではないのでしょうか。地震発生地域在住ではない人にとって、震災被害についての知識はあるものの実際に経験したわけではないということがいくつかあると思います。私は最近海外で過ごす機会があったのですが、そこで利用したアパートメントの床が少し傾いており、在室中はまるでゆっくりと揺れる大型船に乗っているような感覚でした。震災によって生じた家屋の傾きで多くの方が不便な生活を余儀なくされたことが知られていますが、思いがけずその不便さを経験することになりました。ご存知の通り、日本は地震の多い国の一つですが、居住空間の傾きが人に与える影響について詳しく調査

が行われるようになったのは1964年の新潟地震以降のようです。当時の様子を収めた写真には大きく傾いたマンションの廊下を住人が歩く様子も写っており、1度から8度も傾いた住居の中で生活していた住人は浮動感や傾斜側へ引っぱられるような牽引感、頭痛や疲労を覚えていたそうです。私は1度の傾きでも1週間違和感が続きましたから、被災者の方々がいかに大変な生活を送っていたのかと思いました。

そして、今現在、世界中の人々が新型コロナによる未曾有の事態を経験していますが、これだけ多くの人が当事者として語り合えることも初めてではないのでしょうか。私たちはそれぞれの領域を超えて協力し合えると信じて、この経験を今後の研究に活かしていけるように若手の会の一員としても頑張っていきたいと思いました。

(若手の会幹事 宮坂真紀子)